

対人援助学 & 心理学の縦横無尽

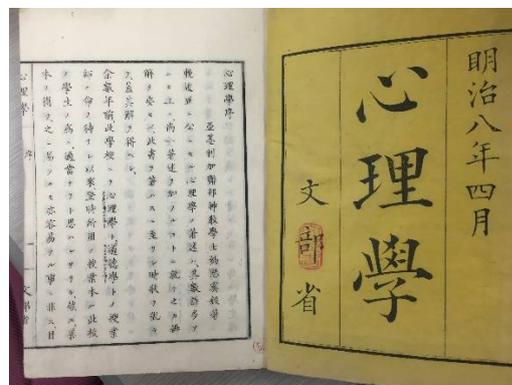
(21)

日本で最初の『心理学』という本を入手した！ 20年来の悲願達成！

—日本で最初の心理学の本は？心理学だけどPsychologyじゃない！

サウタツヤ（総合心理学部）

タイトルの通りで、これ以上は特に言うことも無いのだが、日本で最初の『心理学』という本を入手することができた！日本の心理学史に関心を持ち始めてから、とにかく入手したいと願っていた。過去に一度、とある古書店のウェブサイトでこの本を見つけて購入を申し込んだことがあるが、その時は既に売り切れてしまっていた。だから、今回も実際に買えるという連絡をもらえるまでは、かなり緊張していた。本当に入手できて感無量である。ちなみに、この本の内容は既に国会図書館でデジタル・アーカイブ化されているので簡単に読むことができる。したがって内容について新しいことを知れるわけではない。実物を手に入れることにこそ価値があるのである。思わず記念写真を撮りたくなるウレシサなのである。



さて、今の日本では誰も知らない人がいないという心理学という学問名。この心理学というタイトルが付いた最初の本は、文部省から発行された『心理学』である（そのまんま！）。1875（明治8）年のことであった。この本はアメリカの本の翻訳書で、西周（にし・あまね）が翻訳者であった。

しかし、この「心理学」は Psychology の訳ではなかった。

日本で最初の『心理学』という名前の本(1875)は Haven¹『**Mental Philosophy including Intellect, Sensibilities, and Will**』(1857) j, i-6』‘であった。著者のヘヴンはアーマスト大学の知識・道徳学教授であり、『Moral Philosophy (道徳哲学)』『History of science and modern philosophy (科学と近代哲学の歴史)』などの著書がある。

西周は冒頭の注において、書名は「メンタル、フィロソフィー、インクリューヂンク、インテルレクト、センシビリチース、エンド、キル」と題し知情意三部を包括せる心理哲学という義なり今約して心理学と名く（西、1875）と、記していたから、彼が Mental Philosophy を心理学と訳したこと、また、その意図は明白である。

では、西周は Psychology をどのように訳していたのだろうか？

彼はこの書においては、「Psychology」を「性理学」に対応させていた。

ここで言う「Psychology」は近代心理学以前の心理学である。つまり、心について哲学的に考える学問としての「Psychology」である。西周はこの日本にとって新しい学問である「Psychology」を従来から日本にあった朱子学的な伝統で理解して性理学と訳していたのである。性理学は今の日本人にこそ馴染みは無いのだが、幕末から明治初期にかけてはよく知られた語であった。なお、当時の性には Sex という含意はあまりなく、むしろ Nature(性質)などの意味が強かったから、西は人間の性質を考える学問として Psychology を捉えていたことが分かる。そして、知情意に関する哲学を心理学という新しい言葉で訳したのである。

さて、この本はその後、1878（明治11）年に同じく文部省から洋装本も出版されている。

1878（明治11）年 『心理学』 文部省 洋装本

である。もちろん Haven¹『**Mental Philosophy including Intellect, Sensibilities, and Will**』(1857) j, i-6』‘である。

そして、洋装本（上下二巻）も、古書店から入手することができた。うれしい。あまりのウレシさに和装本と洋装本をセットで写真撮影してみた。ほとんどマニア！



これらの合計5冊の本は、やがて立命館大学おおさかいばらきキャンパス（OIC）総合心理学部の陳列棚に飾られることになるだろう。

次なる野望は Haven'~『Mental Philosophy including Intellect, Sensibilities, and Will』x の原書を手に入れること。もし洋書の現物を手に入れできれば、コレクションとしては完全になるだろう！！

最後に、西周(にし・あまね；1829-1897)について紹介しておこう。

彼は、幕末の人。津和野藩士→脱藩→幕府役人→明治政府官僚という道を辿った。なお、江戸幕府の役人として津田真道(1829-1903)らと共に1862年からオランダ留学(9月出発、翌4月着)、ライデン(Leiden)大学教授フィセリング(Vissering, S;1818-1888)に師事して「国家学(Staatswetenschappen)」の基礎として自然法、国際法、国家法、経済学、統計学の「五科」の講義を受けたことから、海外の思想を日本に導入する役割をとることになった。軍人勅諭・軍人訓戒の起草者として戦後の一時期は(悪)名が高かったが、近年再評価の機運がおきている。日本に海外思想(特に哲学)を導入するのに力を尽くした。彼が作った訳語は数知れず。たとえば Induction を帰納、Deduction を演繹と訳したのは彼である。彼が作った訳語は日本人のみならず、中国・韓国など東アジアの人たちが西洋思想を知るために大変役に立ったと言われている。



写真はウィキペディアより、

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E5%91%A8_\(%E5%95%93%E8%92%99%E5%AE%B6\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E5%91%A8_(%E5%95%93%E8%92%99%E5%AE%B6))